神戸新聞 2017年09月08日 金曜日 面名 東播W １４ 24ページ

セルビア戦女子1位

毎週末、丹波市でフライト

パラグライダーW杯

来年 スーパーファイナル

「自分の力試したい」

神戸・垂水の山下敦子さん

神戸市垂水区本多聞６在住で、丹波市青垣町市原の「ロールアウトパラグライダースクール」に所属する山下敦子さん(41)が、６月のパラグライダーワールドカップ（W杯）セルビア戦で女子１位に輝き、成績上位者が集う来年１月のスーパーファイナル（コロンビア）に向けて練習に力を入れている。世界トップ選手に挑むため、製薬会社に勤めながら毎週末に丹波の空を飛んでおり、「自分の力を本気で試したい」と胸を高鳴らせている。（岩崎昂志）

週末にパラグライダー練習場で汗を流す山下敦子さん＝丹波市青垣町、岩屋山

山下さんは2008年からパラグライダーを始め、W杯スーパーファイナル挑戦は一昨年に続き2度目。前回はスタート直後にトップ選手たちに置き去りにされ、壁の高さを痛感した。より速く飛ぶための用具に買い替え、ひたすら飛んで実力を磨いた。

各国の選手約120人（うち女子14人）が出場したセルビア戦。1週間かけて5回のフライトで競ったが、山下さんは乾燥が激しい現地で体調を崩し、途中で順位を落とした。棄権も考えた最終日、「自分らしく飛びきろう」と腹をくくり、紺碧に澄み渡る空に飛び出した。

待っていたのは、「めっちゃ気持ちいい」（山下さん）と不調も忘れるほどの上昇気流。鳥のように舞い上がると、雲や地形から素早く風を読んでぐんぐん速度を上げ、大会中の自己ベストをたたき出した。しばらくして逆転優勝を伝えられた山下さん。「頑張って良かった」と涙を流した。

世界の頂点を決めるスーパーファイナルは多数のプロ選手も参加する。山下さんにとっては長期遠征の負担も大きいが、「上手な人と一緒に飛ぶのが何より楽しい。一体どんな世界が広がっているか」とやる気十分。週末は時間を惜しむように同スクールに通い、近くの岩屋山からフライトを重ねて飛躍を誓う。

W杯セルビア戦で多数の選手と競う山下さんの白いパラグライダー（手前右から3人目）。数十キロも飛び続ける＝パラワールド編集部提供

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名 前【　　】

① 山下さんは、何の競技でどんな成績をあげたのですか？

（　　）

② 山下さんが、その競技を始めたのは、何年ですか？

（　　年）

③ 山下さんは、毎週末、何市でフライトをしているのですか？

（　　）

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／中学～高校生／学活、LHR，総合、朝NIE